

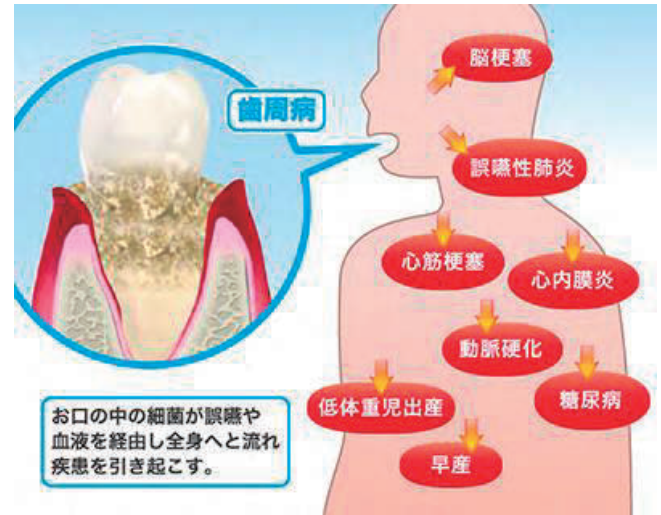
0566-21-0211

こんにちは。院長の久田和明です。今回の58号では、前回に引き続き、全身疾患と歯周病の関係についてです。ご家族の皆様でどうぞご覧ください。



歯周病は生活習慣病

歯周病は生活習慣病の一つとされています。自然治癒することがなく気づかないうちに症状が進んでしまう病気です。そのまま放置しておくと健康な歯にも悪影響を及ぼし、持病の全身疾患も悪化してしまいます。



○狭心症・心筋梗塞

歯周病原菌などの刺激により、動脈硬化を誘導する物質が出て血管内にプラーク(粥状の脂肪性沈着物)ができ、血液の通り道が細くなります。そのプラークがはがれて血の塊ができると血管が詰まる原因となります。

○脳梗塞

脳の血管でプラークが詰まったり、頸動脈や心臓から血の塊やプラークが飛んできて、脳血管が詰まる病気です。

歯周病の人は、そうでない人の2.8倍脳梗塞になりやすいと言われています。

○関節リウマチ

歯周病原菌が歯肉に炎症を起こすと、身体にあってもよいたんぱく質を異物と認識し、抗体を作ってしまう免疫異常が、関節の炎症に結びついてしまうことがわかっています。

逆に、関節リウマチの人が、治療薬などで免疫力が低下していれば、容易に歯周病を併発しやすくなります。

さらに関節リウマチでは、シェーグレン症候群という唾液分泌を低下させる膠原病を合併することもしばしばあります。唾液が減少することで口腔内衛生が保ちにくくなり、歯周病が進行しやすくなります。

医院のお花



○妊娠性歯肉炎

一般に、妊娠すると歯肉炎(歯周病の初期症状)にかかりやすくなります。

エストロゲンというホルモンが、ある特定の歯周病原細菌の増殖を促すこと、歯肉を作る細胞がエストロゲンの標的となることが知られています。

○低体重児出産、早産

妊娠中、歯周病に罹患していると、低体重児および早産のリスクが7倍高くなることが指摘されています。歯周病細菌が血中に入り、胎盤を通して胎児に直接感染するのではないかとされています。

○骨粗しょう症

エストロゲンというホルモン分泌が少なくなることで、歯を支えている歯槽骨がもろくなります。歯周ポケット内では炎症を引き起こす物質が作られ、歯周炎が加速されると考えられます。

このように全身疾患と歯周病は深い関係性があり、お互いの疾患が相互的に悪循環に陥らないため、歯周病を悪化させないことが大切です。

ホームケア(自身での口腔内管理)とプロフェッショナルケア(医院での歯科医師や歯科衛生士による口腔ケア)でお口の状態を維持しましょう。



京極歯科

〒448-0844 刈谷市広小路3-33 (木・日・は休診です。祝は午後休診です。)

電話予約 ☎ 0566-21-0211

ネット予約 を検索してください。(24時間対応)

HP...<http://www.kyougoku-dental.com> <http://www.ireba-aichi.com> <http://www.kyougoku.jp/>

ホームページで
ご覧ください。



久田 和明

歯学博士

歯科理工学専攻

趣味はゴルフ